

第3講 学習目標と行動目標

【学修到達目標】

- 学習目標と行動目標について理解することができる。
- 学習目標および行動目標と教材開発について説明することができる。

1. 学習目標

効果的な学習目標の設定

- モチベーションの維持
- 効率的な学習の促進

組織心理学における目標設定理論 (Locke & Latham, 1990)

- 具体的で高い目標の設定
- 目標の高さとパフォーマンス
- 関連要因の影響



1. 学習目標

効果的な学習目標の設定

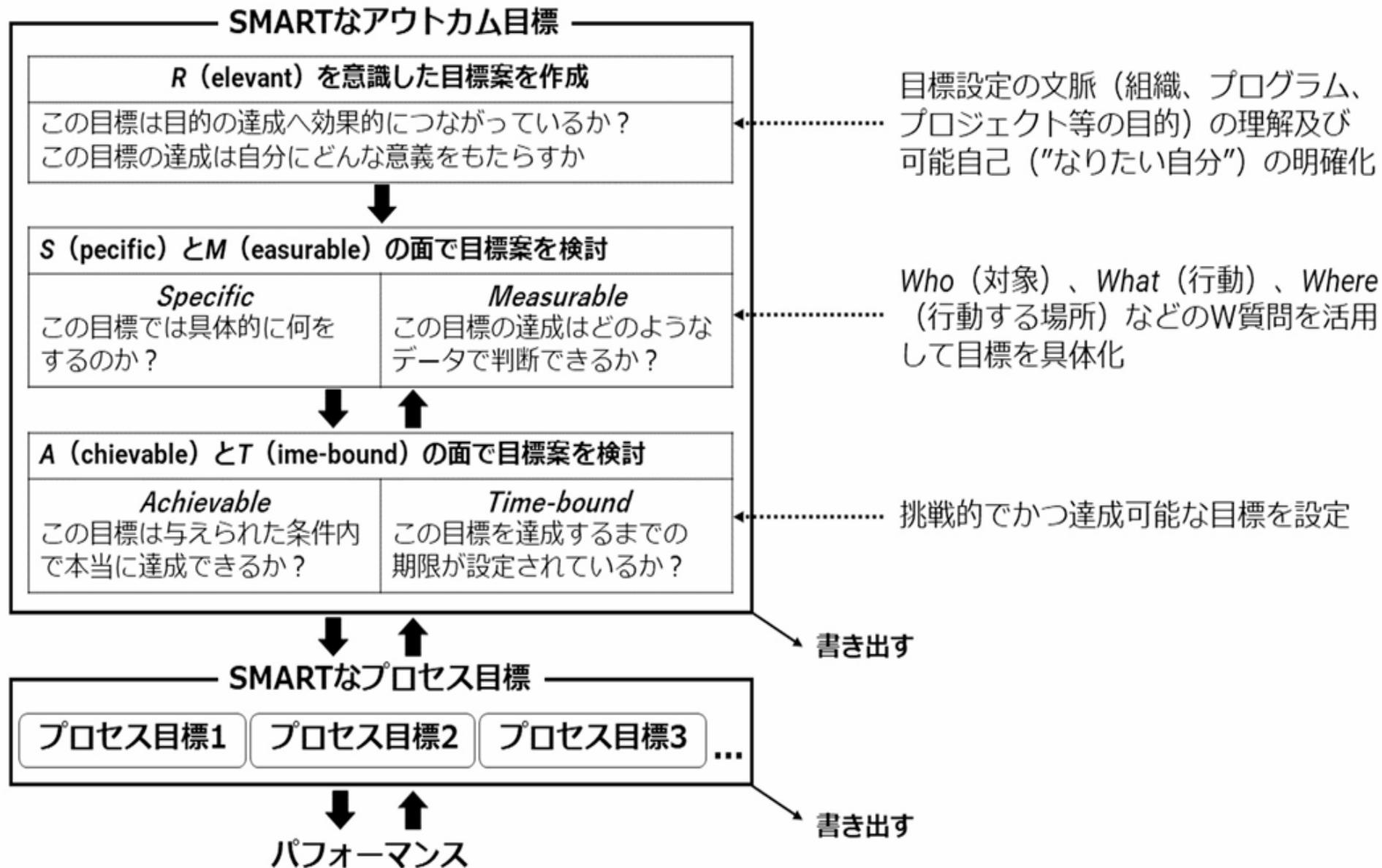
SMARTの各要素

- Specific (具体的)
- Measurable (測定可能)
- Achievable (達成可能)
- Relevant (関連性)
- Time-bound (時間制約)



1. 学習目標

目標設定理論とSMART目標が統合された目標設定プロセス



2. 行動目標

学習目標と行動目標の連携

学習目標

- 学習者が到達することを期待される全体的な目的や成果
- 学習者が何を理解し、知識として身につけるべきか
- 抽象的、教育活動全体の方向性を示す

行動目標

- 学習目標を具体化し、学習後に学習者が取るべき具体的な行動
- 学習者が何ができるようになるか
- 具体的、観察可能、測定可能、学習成果の評価基準



学習者にとって学習の目的が具体的でわかりやすい
目標達成への道筋が明確で、進歩を実感しやすい
教師にとって指導の効果を評価する重要な基準の連携

2. 行動目標

学習理論の変遷と行動目標

行動主義 (Behaviorism)

- 観察可能な行動の変化
- 刺激と反応の関係、具体的な行動目標を重視、学習成果が測定可能

認知主義 (Cognitivism)

- 学習者の内面的な理解や思考プロセス
- 行動目標に加え、理解や知識の習得も重視
- 情報処理、記憶、蓄積、想起のプロセス

構成主義 (Constructivism)

- 学習者が経験や知識を基盤に新しい情報を積極的に構築するプロセス
- 学習者主体の知識構成、能動的な学びへの関与、既存知識と新情報の統合、現実世界との関連性重視、他者との対話・協働

3. 学習目標および行動目標と教材開発

学習目標と行動目標の連携

教材開発のポイント

- 学習目標と行動目標の明確な設定と連携
- 学習理論の知見に基づいた目標・活動・評価の設計
- 学習者の内発的動機を高める工夫
- 高次思考力を育成する活動の導



3. 学習目標・行動目標と教材開発

各学習理論に基づいた目標と評価の例

学習理論	行動目標の例	評価方法の例	学習活動の例
行動主義	特定の用語を正確に記述できる	客観式テスト、記述式課題、パフォーマンス評価	反復練習、ドリル、明確なフィードバック
認知主義	提示された情報を整理し構造化して説明できる	概念マップ作成、事例分析、構造化された記述課題	情報整理活動、比較分析、類推
	複数の概念間の関係性を分析し図示できる	関係図作成、分析レポート	関係性の探索、図解化
	新しい状況に対して習得した知識やスキルを応用できる	問題解決課題、シミュレーション	応用問題解決、ケーススタディ
構成主義	複数の情報源から必要な情報を収集し批判的に評価できる	ポートフォリオ評価、発表、レポート	情報収集・分析、批判的検討
	グループ内で役割分担し協力して一つの成果物を制作できる	ルーブリック評価、共同制作物	グループワーク、共同制作
	自身の考えや解決策を根拠に基づき説明し議論できる	プレゼンテーション、ディスカッション	議論、発表、意見交換

第3講 学習目標と行動目標

課題

1. 学習目標と行動目標について整理しなさい。
2. 学習目標および行動目標と教材開発の関係について整理しなさい。